

各地区別資料（中学校区別）

西中学校区

学区概要

市の最西部に位置する。学区の西側は相模川に面した沖積低地であり、学区の東側は座間丘陵で市街化区域となっており、小田急線座間駅周辺は商業地となっている。座間小学校・入谷小学校と座間駅周辺の間には、20m以上の高低差がある。また、北側にはキャンプ座間（米軍基地）がある。人口は、JR相模線より東側と、座間駅周辺に集中している。

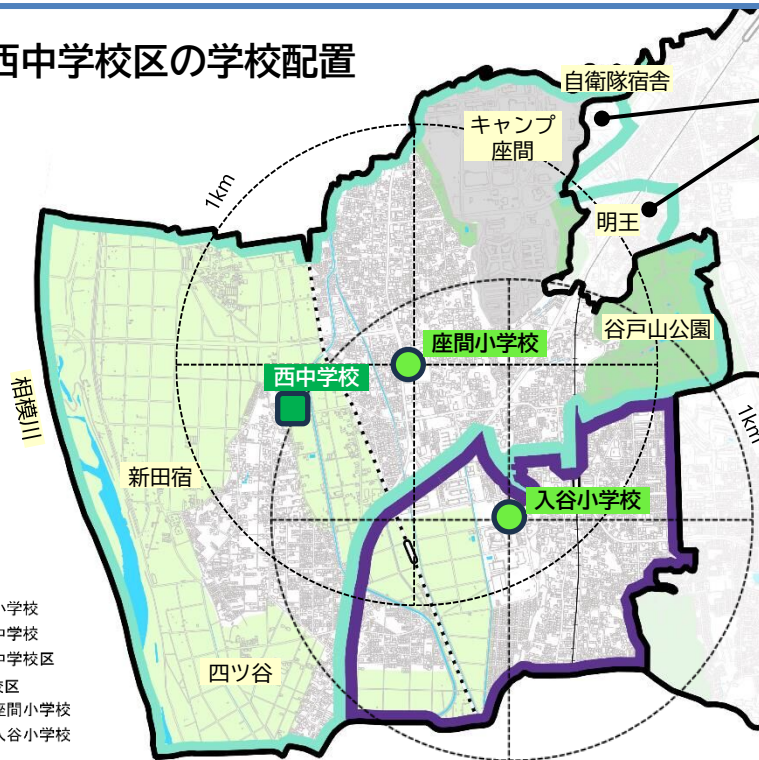
● 学校一覧

令和4(2022)年11月時点

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建設年度		経過年数	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				西暦	和暦		普通学級	特別支援	普通学級	特別支援
1 座間小学校	座間2-3133	17,735	6,984	1964	S39	58	775	25	23	5
2 入谷小学校	入谷西5-8-1	18,182	8,318	1977	S52	45	457	13	15	3
3 西中学校	座間2-1230	22,388	7,398	1966	S41	56	529	24	15	5
西中学校区3校計		58,305	22,700				1,761	62	53	13

配置状況・地域状況・学区状況

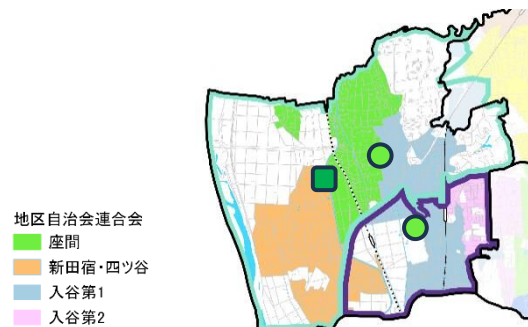
● 西中学校区の学校配置



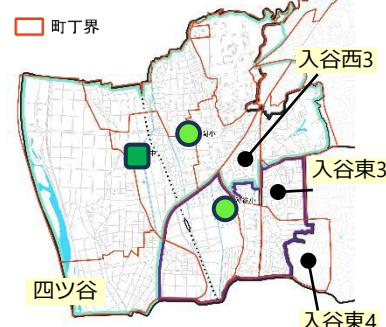
自衛隊宿舎及び明王は、座間小学校から座間中学校に進学

- 西中学校区には2つの小学校があり、座間小学校区の一部は座間中学校区である。
- 座間小学校と入谷小学校の直線距離は約700mと近い。
- 座間小学校区には、入谷小学校の方が近い地点がある。
- 新田宿・四ツ谷では、通学距離が2km以上の地点がある。
- 座間中学校区との間はキャンプ座間・谷戸山公園、栗原中学校区との間には尾根があり、地形が学区界となっている。

● 地区自治会連合会との対比



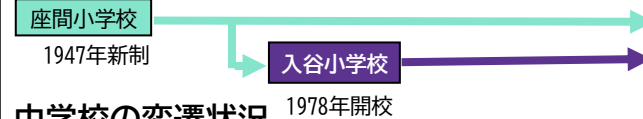
● 町丁界との対比



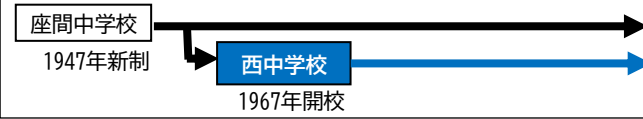
- 座間地区自治会連合会は、西中学校区/座間小学校区と一致する。
- 入谷西3丁目、入谷東3丁目及び四ツ谷は、同一町丁内で座間小学校区と入谷小学校区に分かれる。
- 入谷東4丁目は、西中学校区/入谷小学校区と栗原中学校区/中原小学校区に分かれている。

学校の変遷

小学校の変遷状況



中学校の変遷状況



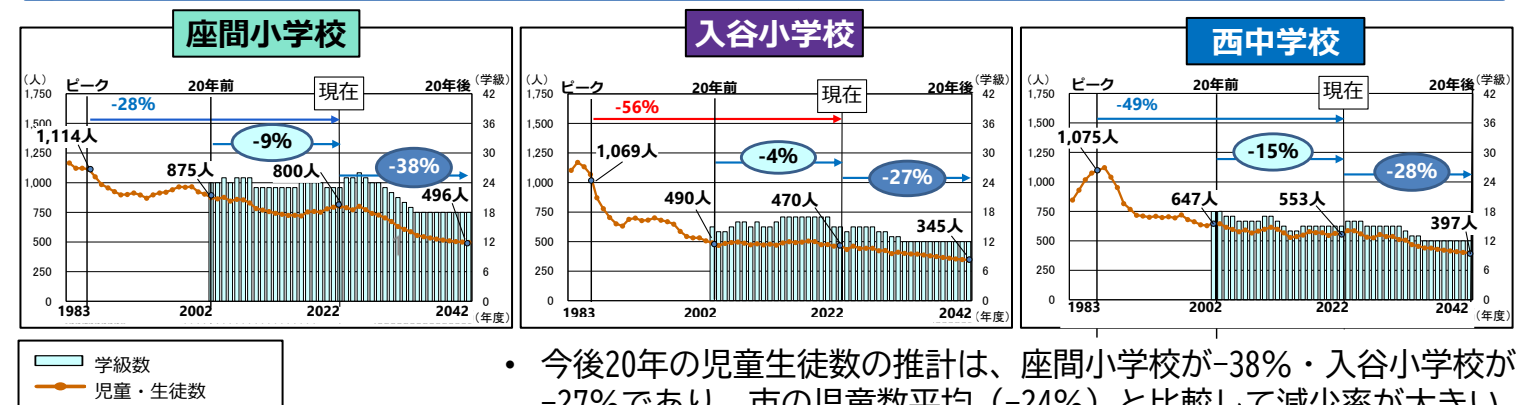
小学生の進学先の割合 (令和元～3(2019～2021)年平均)

進学先	西中学校	座間中学校
座間小学校	93%	7%
入谷小学校	100%	—

※国・県・私立中学校への進学者と、3名以下の進学先は含まない。

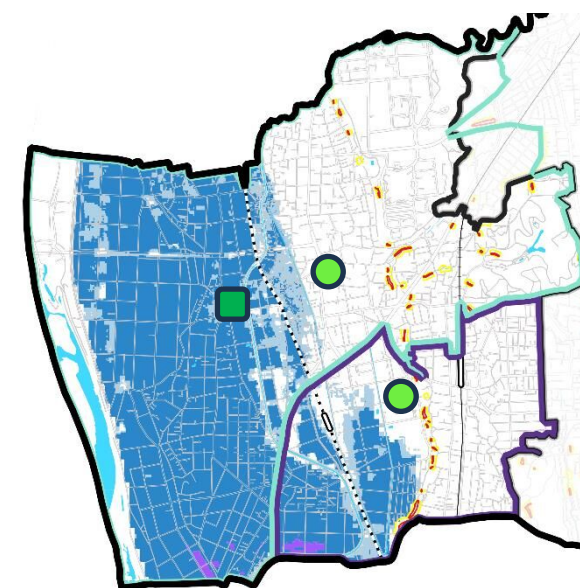
学校別児童生徒数の推移・推計

令和4(2022)年11月時点



- 今後20年の児童生徒数の推計は、座間小学校が-38%・入谷小学校が-27%であり、市の児童数平均(-24%)と比較して減少率が高い。西中学校は-28%であり、市の生徒数平均(-23%)よりも減少率が高い。
- 座間小学校は、今後20年で児童数が300人程度減少するが、今後5年間は現在と同程度の規模を維持する見込み。
- 入谷小学校は、今後20年で児童数が130人程度減少するが、令和14年(2032年)度以降は、全学年で1学年2学級になる見込み。
- 西中学校は、今後20年で生徒数が150人程度減少する見込み。

ハザードマップ



- 土砂災害警戒区域は、座間小学校区・入谷小学校区ともに、座間丘陵と低地の境界付近にある。
- 座間小学校、入谷小学校、西中学校ともに、学校敷地内に土砂災害警戒区域はない。
- 洪水浸水地域は、相模川に近い低地部分の大半が該当している。
- 西中学校は、洪水浸水地域内に立地している。

出典：国土交通省 国土数値情報 (洪水浸水想定地域データ) (土砂災害警戒区域データ)

座間中学校区

学区概要

学区内を目久尻川が流れ、川の東側は市街化調整区域となっている。西側は、市役所等の行政・文化機能が集積する地区や、低層住宅地が広がる。相武台前駅周辺には商業地があり、その周りには中高層住宅が広がっている。

西側は西中学校区と接し、谷戸山公園及びキャンプ座間（米軍基地）により地理的に分かれる。東側は、工業地域によって相模中学校区及び東中学校区と地理的に分かれる。北東側では相模中学校区、南側では栗原中学校区と市街地がつながっている。

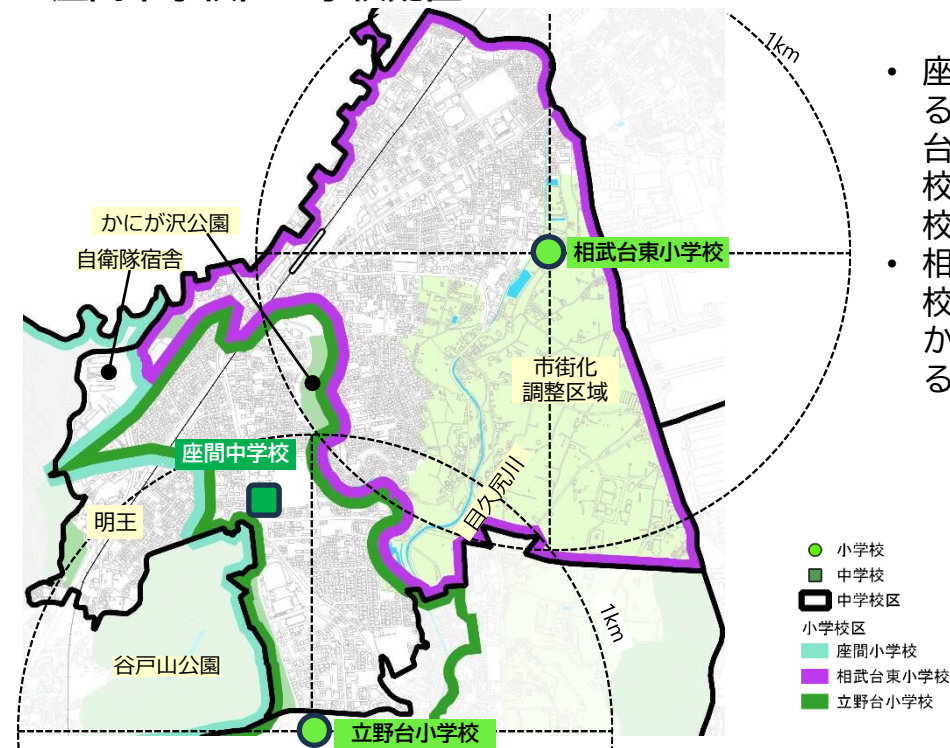
● 学校一覧

令和4(2022)年11月時点

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建設年度		経過年数	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				西暦	和暦		普通学級	特別支援	普通学級	特別支援
1 相武台東小学校	栗原1302	18,450	7,093	1970	S45	52	601	10	19	2
2 座間中学校	緑ヶ丘4-6-10	33,278	7,306	1965	S40	57	525	14	15	3
座間中学校区2校計		51,728	14,399				1,126	24	34	5

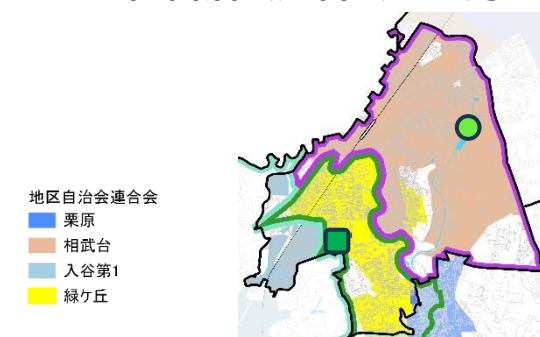
配置状況・地域状況・学区状況

● 座間中学校区の学校配置

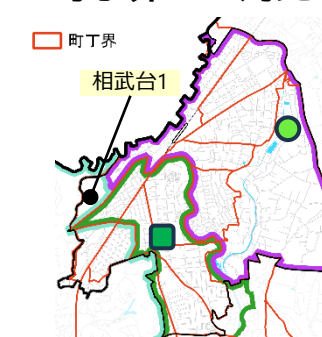


- 座間中学校区に3つの小学校区がある。相武台東小学校区は全域、立野台小学校区は学区の北側、座間小学校区は明王や自衛隊宿舎が座間中学校区である。
- 相武台東小学校と立野台小学校の2校間の直線距離は約2kmあり、両校からほぼ等距離の場所に学区界がある。

● 地区自治会連合会との対比



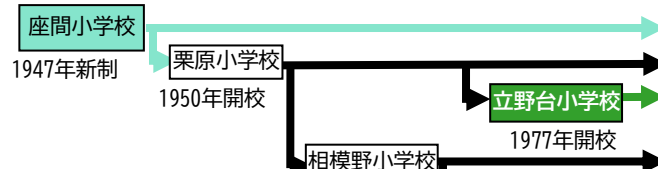
● 町丁界との対比



- 相武台地区自治会連合会は、座間中学校区/相武台東小学校区と一致する。
- 緑ヶ丘地区自治会連合会は、座間中学校区/立野台小学校区と一部を除き一致する。
- 相武台1～4丁目のうち、2～4丁目は座間中学校区/相武台東小学校区。相武台1丁目の一部が、座間中学校区/座間小学校区である。

学校の変遷

小学校の変遷状況

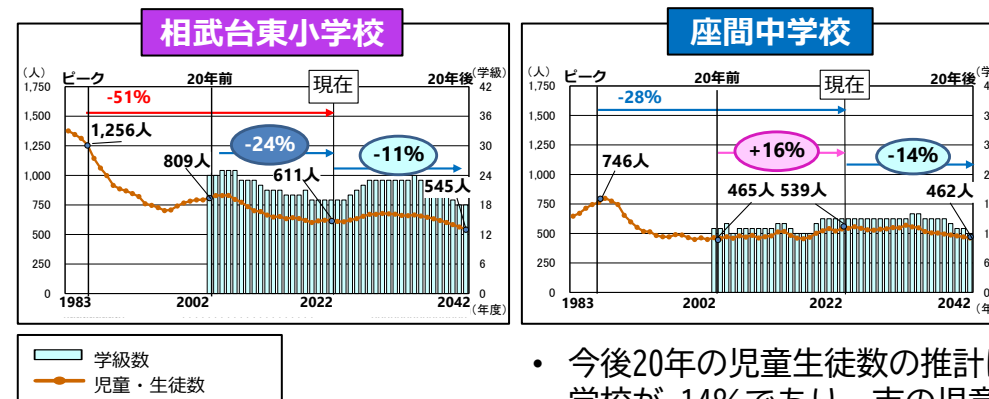


中学校の変遷状況



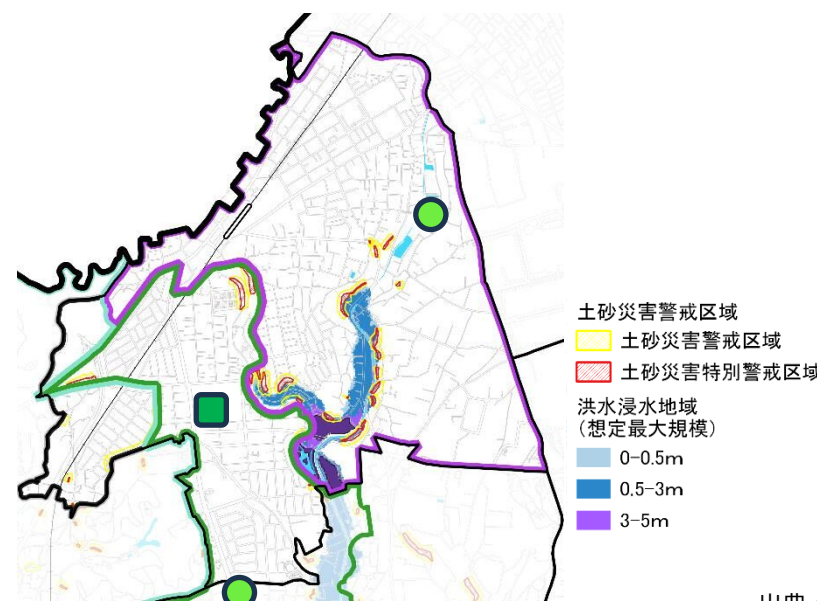
学校別児童生徒数の推移・推計

令和4(2022)年11月時点



- 今後20年の児童生徒数の推計は、相武台東小学校が-11%、座間中学校が-14%であり、市の児童数平均(-24%)、市の生徒数平均(-23%)と比較していずれも減少率が小さい。
- 相武台東小学校は、今後20年で児童数が70人程度減少する見込みだが、今後5年間は児童数が増加し、学級数も最大24学級まで増加する見込み。
- 座間中学校は、今後20年で生徒数が80人程度減少する見込みだが、学級数は当面の間、現在と同規模(15学級)を維持する見込み。

ハザードマップ



- 土砂災害警戒区域は、かにが沢公園周辺と目久尻川の東側に集中している。また、立野台小学校区の北部にも該当区域がある。
- 相武台東小学校、座間中学校ともに校地に土砂災害警戒区域には含まれていない。
- 相武台東小学校は、学校敷地に擁壁があるが、隣接地を含め土砂災害警戒区域ではない。
- 洪水浸水地域は、主に相武台東小学校区にあり、かにが沢公園及び目久尻川沿いが該当する。学校敷地内への浸水の想定はない。

出典：国土交通省 国土数値情報 (洪水浸水想定地域データ) (土砂災害警戒区域データ)

栗原中学校区

学区概要

市の中央部に位置する。中学校区のほぼ中央を目久尻川が流れており、地形面では2つのエリアに分かれている。学区内は住宅地が大半を占めるが、栗原中学校の所在地及びその北東側は市街化調整区域であり、児童生徒数は少ない。

栗原中学校区内に位置する3つの小学校は、すべて2つの中学校に分散して進学する。

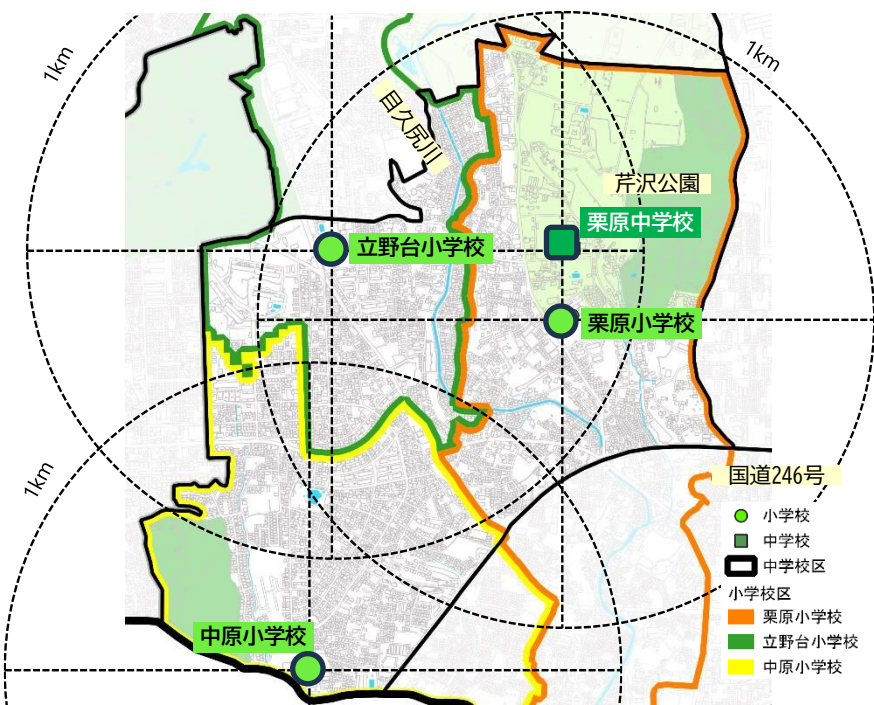
● 学校一覧

令和4(2022)年11月時点

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建設年度		経過年数	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				西暦	和暦		普通学級	特別支援	普通学級	特別支援
1 栗原小学校	栗原中央6-8-1	17,469	6,840	1962	S37	60	669	18	23	4
2 立野台小学校	立野台1-1-3	14,934	7,205	1976	S51	46	665	29	22	5
3 中原小学校	西栗原2-16-1	16,211	7,433	1983	S58	39	435	15	14	2
4 栗原中学校	栗原中央6-4-1	25,029	8,391	1976	S51	46	452	10	13	2
栗原中学校区4校計		73,643	29,869				2,221	72	72	13

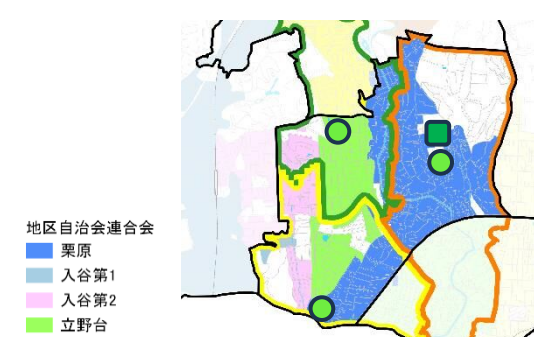
配置状況・地域状況・学区状況

● 栗原中学校区の学校配置

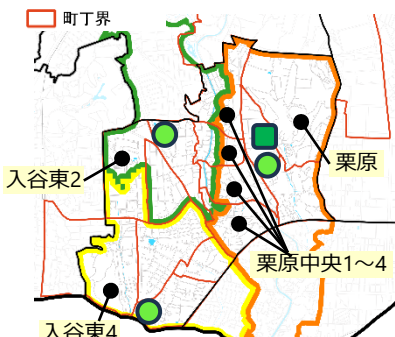


- 1 中学校区に3つの小学校区があるが、いずれの小学校も小学校区と中学校区が一致しない。
- 小学校区は、概ね半径1kmに収まるが、中原小学校区の一部に立野台小学校の方が近い地区がある。
- 中学校区の南側は、国道246号で区切られているが、小学校区では国道を歩道橋または立体交差で横断する学区設定になっている。

● 地区自治会連合会との対比



● 町丁界との対比



- 栗原地区、立野台地区自治会連合会は、中学校区と一致する。3つの小学校区は、どの地区自治会連合会とも一致しない。
- 栗原地区、入谷第2地区自治会連合会は、3つの小学校区にまたがっている。
- 栗原、入谷東2・4丁目、栗原中央1～4丁目において小学校区と町丁の境界が異なる。入谷東4丁目は、中学校区も分かれる。

学校の変遷

小学校の変遷状況



中学校の変遷状況



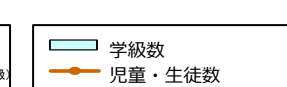
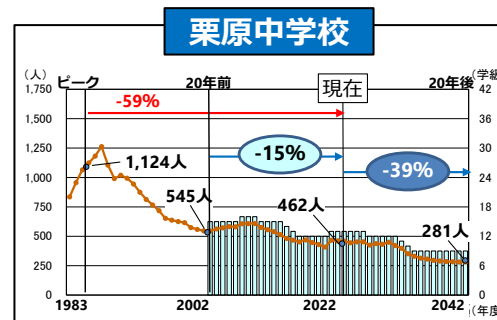
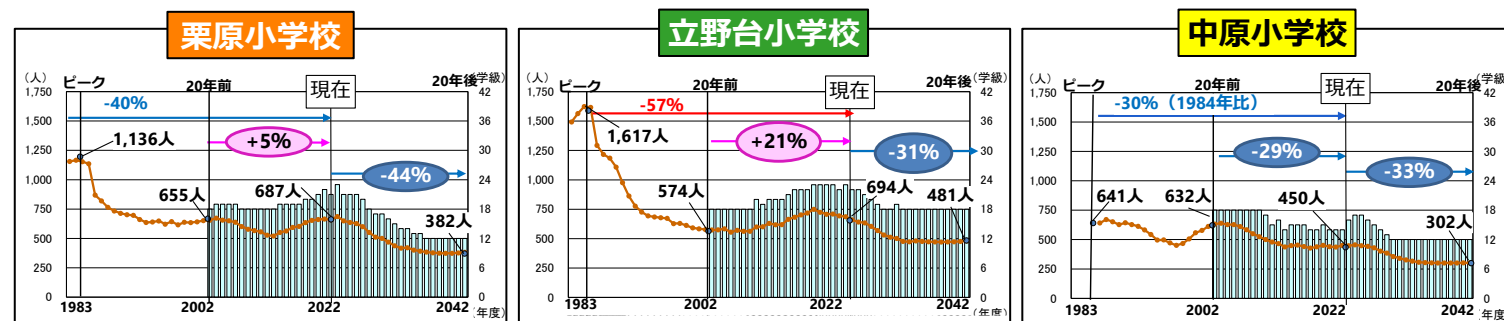
小学生の進学先の割合 (令和元～3(2019～2021)年平均)

進学先	栗原中学校	南中学校	座間中学校
栗原小学校	47%	53%	—
立野台小学校	39%	—	61%
中原小学校	76%	24%	—

※国・県・私立中学校への進学者と、3名以下の進学先は含まない。

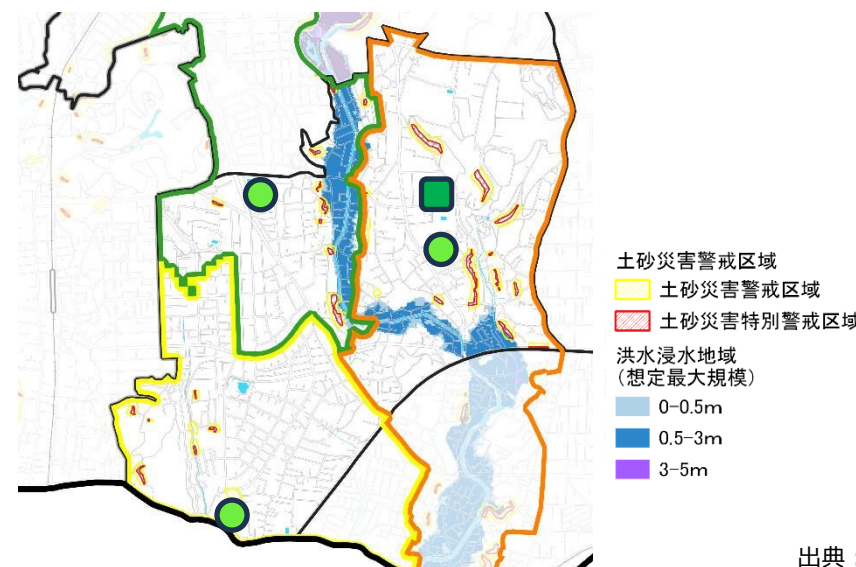
学校別児童生徒数の推移・推計

令和4(2022)年11月時点



- 今後20年の児童生徒数の推計は、栗原小学校が-44%、立野台小学校が-31%、中原小学校が-33%であり、市の児童数平均(-24%)と比較して減少率大きい。栗原中学校は-39%であり、市の生徒数平均(-23%)より減少率大きい。
- 中原小学校は、令和11年(2029年)以降1学年2学級校となる見込み。

ハザードマップ



- 土砂災害警戒区域は、立野台小学校区の目久尻川西側、栗原小学校区の芹沢川の両岸、中原小学校の西側などに分布している。
- 栗原小学校、立野台小学校、栗原中学校は、学校敷地内に土砂災害警戒区域はないが、中原小学校は、校地の一部が土砂災害警戒区域に指定されている。
- 洪水浸水地域は、目久尻川に沿って分布しており、栗原中学校区及び栗原小学校区は、出水時に分断されることも想定される。

出典：国土交通省 国土数値情報 (洪水浸水想定地域データ) (土砂災害警戒区域データ)

南中学校区

学区概要

国道246号より南側の地域で、1975年に開業した相模鉄道さがみ野駅の北西側に広がる住宅地である。全域が市街化区域であり、さがみ野駅周辺は市南部の主要な商業地となっているほか、駅の北側は低層住宅地の他に、UR都市機構による中高層住宅も立地している。

北側は栗原・東中学校区であり、国道246号が境界となっている。学区内に小学校はなく、栗原・中原・東原小学校の卒業生のうち、国道246号より南側の生徒が進学する。

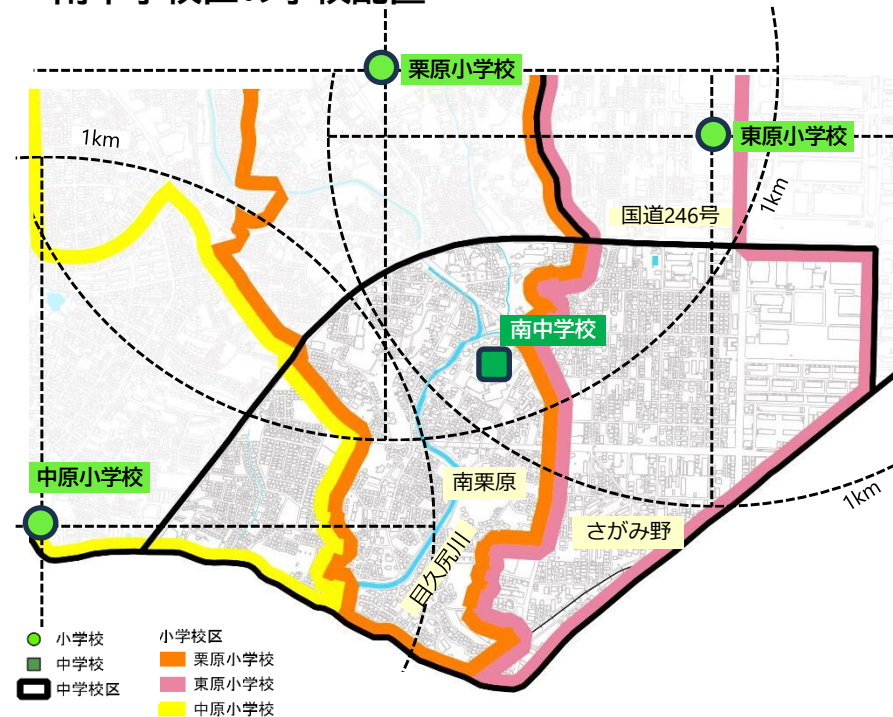
● 学校一覧

令和4(2022)年11月時点

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建設年度		経過年数	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				西暦	和暦		普通学級	特別支援	普通学級	特別支援
1 南中学校	南栗原3-8-1	16,191	7,849	1985	S60	37	379	10	12	2
南中学校区1校計		16,191	7,849				379	10	12	2

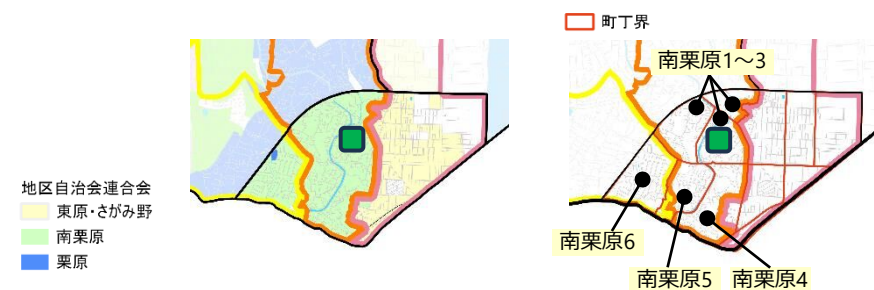
配置状況・地域状況・学区状況

● 南中学校区の学校配置



- 南中学校区には小学校はなく、栗原・中原・東原小学校の卒業生のうち、国道246号よりも南側に居住する児童が進学する。
- 学区の南側（さがみ野・南栗原）には、どの小学校からも直線距離で1km以上離れた地域がある。

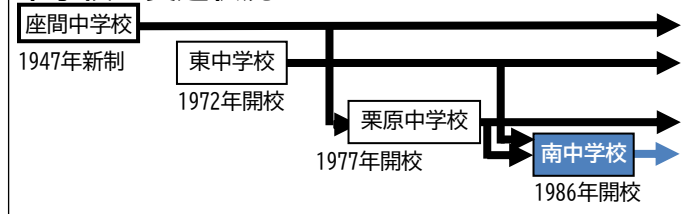
● 地区自治会連合会との対比 ● 町丁界との対比



- 東原・さがみ野地区自治会連合会は、東原小学校区とほぼ一致する。南中学校区とは一致していない。
- 南栗原地区自治会連合会は、中学校区と一致する。
- 南栗原は3つの小学校区に分かれており、1～3丁目は栗原小学校区、4丁目は栗原・東原小学校区、5丁目は栗原・中原小学校区、6丁目は中原小学校区である。

学校の変遷

中学校の変遷状況



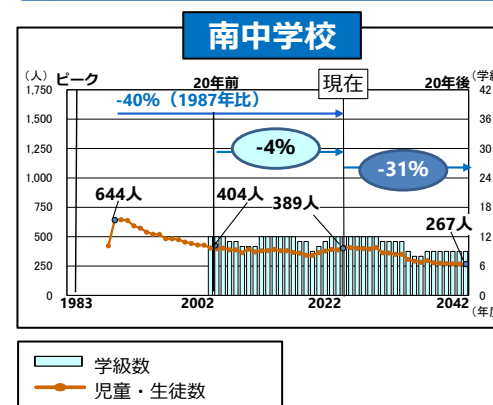
小学生の進学先の割合 (令和元～3(2019～2021)年平均)

進学先	南中学校	栗原中学校	東中学校
東原小学校	58%	—	42%
栗原小学校	53%	47%	—
中原小学校	24%	76%	—

※国・県・私立中学校への進学者と、3名以下の進学先は含まない。

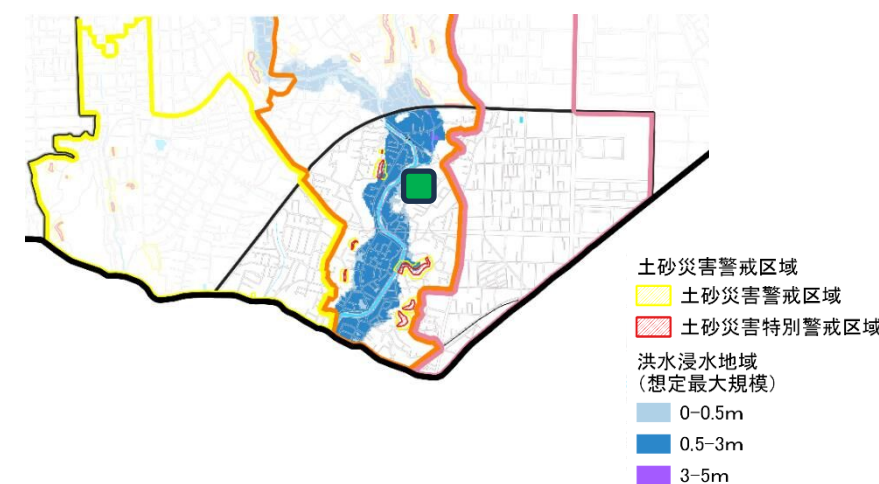
学校別生徒数の推移・推計

令和4(2022)年11月時点



- 南中学校区には小学校の立地はなく、他の中学校区にある小学校へ通学する。
- 南中学校は、過去20年の生徒数の推移が-4% (-15人)であり、ほぼ横ばいであったが、過去に学級数が12学級を下回っていた年がある。
- 今後20年の生徒数の推計は、南中学校では-31%であり、市の平均(-23%)よりも減少率が高い。
- 学級数は、令和10年(2028年)以降、恒久的に12学級を下回る見込み。

ハザードマップ



- 土砂災害警戒区域は、目久尻川沿いの低地とその周辺の高低差のある部分に集中している。小学校区単位では、栗原小学校区に集中している。
- 南中学校は、学校敷地内に高低差があるが、土砂災害警戒区域には指定されておらず、敷地周辺も指定されていない。
- 洪水浸水地域は、目久尻川の両岸に広がっており、小学校区単位では栗原小学校区に集中している。
- 南中学校は、目久尻川に近接しているが、浸水の想定はない。

出典：国土交通省 国土数値情報 (洪水浸水想定地域データ) (土砂災害警戒区域データ)

東中学校区

学区概要

市の最も東側にある地域で、地域西側は工業系施設及び大型商業施設がある。地域東側は準工業地域であり、東側に隣接する大和市から市街地がつながっている。南中学校区とは国道246号で、栗原中学校区とは工業専用地域及び芹沢公園により区切られている。なお、北側の相模中学校区との境界は、小松原1丁目と2丁目の境である。

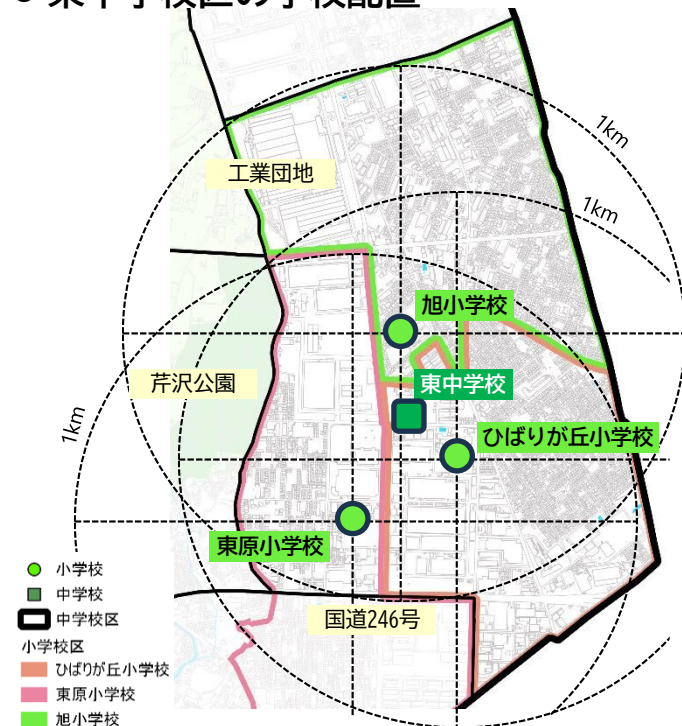
● 学校一覧

令和4(2022)年11月時点

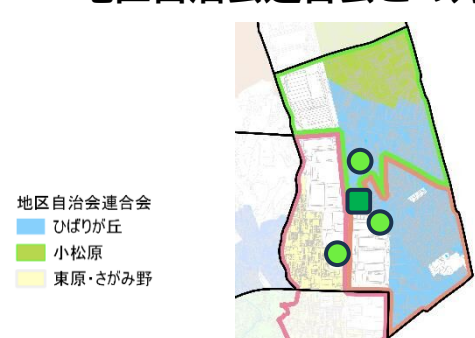
名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建設年度		経過年数	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				西暦	和暦		普通学級	特別支援	普通学級	特別支援
1 ひばりが丘小学校	ひばりが丘4-4-1	19,429	7,307	1971	S46	51	333	13	12	4
2 東原小学校	東原2-6-1	21,452	8,020	1972	S47	50	537	11	18	2
3 旭小学校	ひばりが丘5-43-1	13,779	7,568	1979	S54	43	462	13	15	4
4 東中学校	ひばりが丘5-57-1	24,142	7,828	1971	S46	51	557	10	15	2
東中学校区4校計		78,802	30,723				1,889	47	60	12

配置状況・地域状況・学区状況

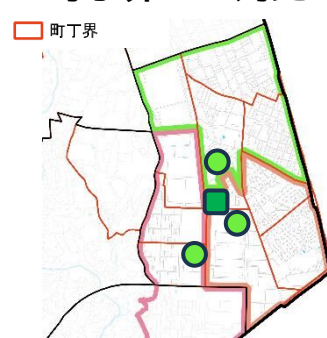
● 東中学校区の学校配置



● 地区自治会連合会との対比



● 町丁界との対比

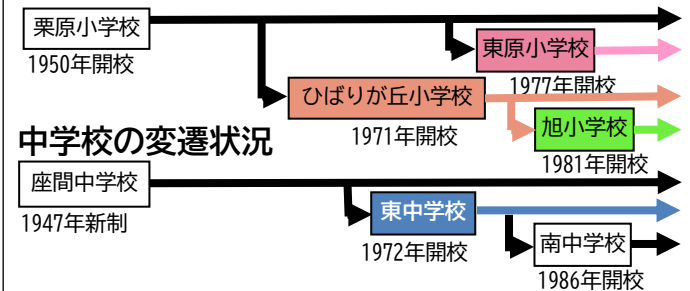


- 1 中学校区に3つの小学校区があり、ひばりが丘小学校区及び旭小学校区は中学校区と一致している。
- 東原小学校区は、学校の東側と北側が工業地のため、西側と南側に学区が限られる。
- 旭小学校区は、工業団地及び他校学区が隣接しているため、北東側に学区が限られる。
- 小学校3校は近接しており、ひばりが丘小学校の半径500m圏に立地している。
- 国道246号の横断は、ひばりが丘小学校区では横断歩道による平面交差、東原小学校区では歩道橋による立体交差である。

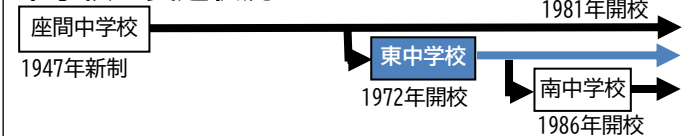
- ひばりが丘地区自治会連合会は、2つの小学校区に分かれる。中学校区とは一致する。
- 小松原地区自治会連合会は、小学校区・中学校区ともに、町丁界を境に2校に分割されている。
- 東原・さがみ野地区自治会連合会は中学校区が2つに分かれる。
- 小・中学校区とも、町丁界とは一致している。

学校の変遷

小学校の変遷状況



中学校の変遷状況



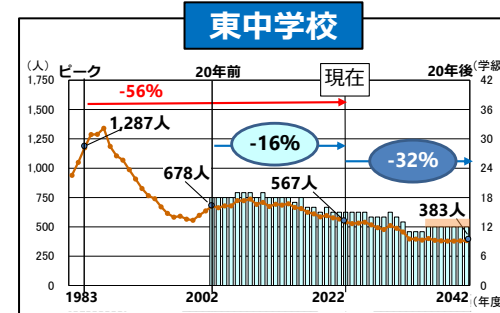
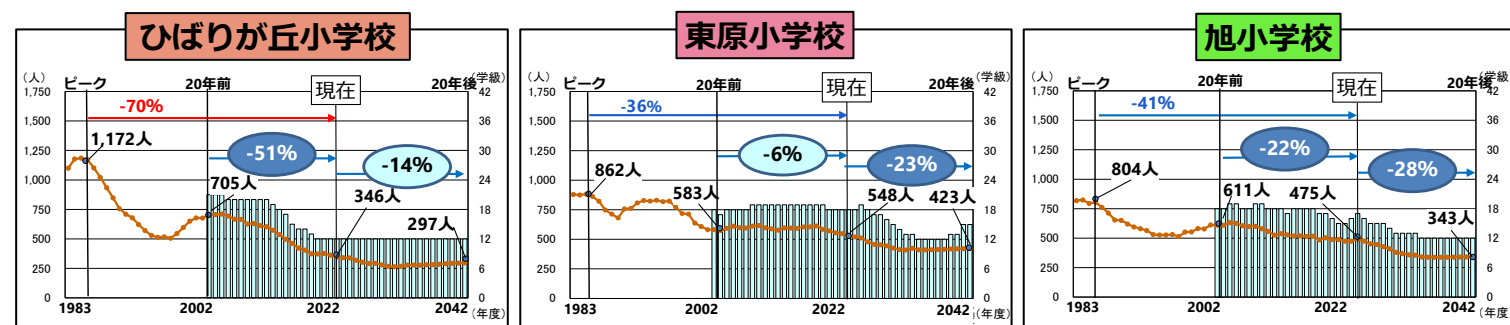
小学生の進学先の割合 (令和元～3(2019～2021)年平均)

小学校名	進学先	東中学校	南中学校
ひばりが丘小学校		100%	—
東原小学校		42%	58%
旭小学校		100%	—

※国・県・私立中学校への進学者と、3名以下の進学先は含まない。

学校別児童生徒数の推移・推計

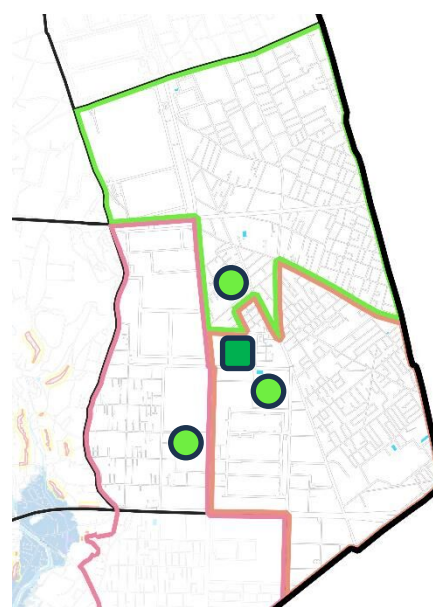
令和4(2022)年11月時点



学級数
児童・生徒数

- 今後20年の児童生徒数の推計は、旭小学校が-28%、東原小学校が-23%、すでに減少しているひばりが丘小学校では-14%である。
- 東中学校は、今後20年で32%の減少見込み。
- ひばりが丘小学校は、すでに12学級校であり、東原小学校、旭小学校も今後12学級になる年が発生する見込み。

ハザードマップ



- 土砂災害警戒区域は、ひばりが丘小学校区、旭小学校区、東原小学校区ともない。
- 洪水浸水地域は、ひばりが丘小学校区、旭小学校区、東原小学校区ともない。

出典：国土交通省 国土数値情報 (洪水浸水想定地域データ) (土砂災害警戒区域データ)

相模中学校区

学区概要

地域北側は小田急相模原駅に隣接した市街地で、商業地となっている。商業地の南側は中高層住宅主体の住宅地であり、本市の中でも人口密度が高く、密集市街地も一部で見られる。地域南側は工業地域が大半で、近年は住居系や商業系への用途転換も進んでいる。座間中学校区、東中学校区と接しており市街地部分はつながっているが、地域南西の工業地域によって座間中学校区とは分かれている。

● 学校一覧

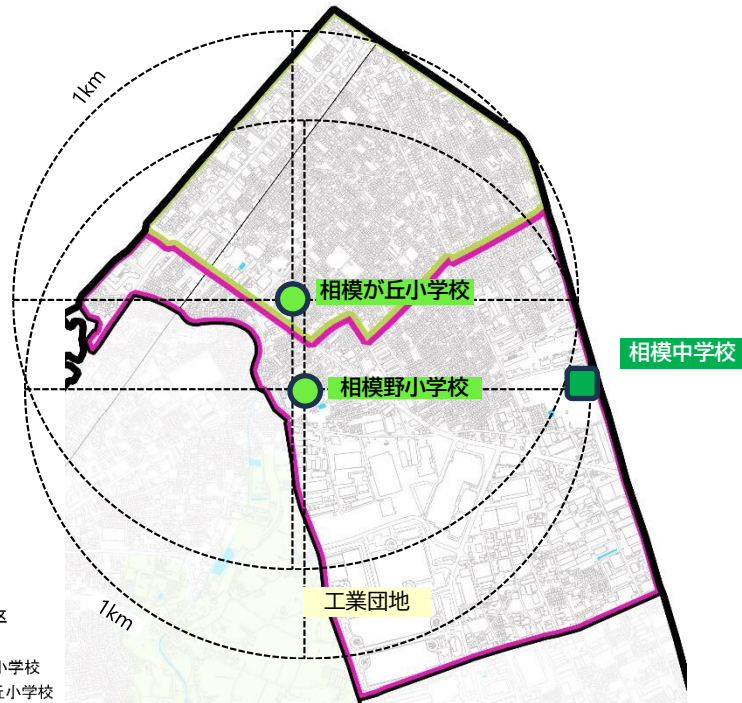
令和4(2022)年11月時点

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建設年度		経過年数	児童生徒数(人)		学級数(学級)	
				西暦	和暦		普通学級	特別支援	普通学級	特別支援
1 相模野小学校	広野台1-41-1	17,901	6,690	1962	S37	60	441	22	16	5
2 相模が丘小学校	相模が丘3-1-1	14,221	6,954	1975	S50	47	553	22	18	5
3 相模中学校	相模が丘6-35-1	22,900	7,560	1978	S53	44	524	16	15	3
相模中学校区3校計		55,022	21,204				1,518	60	49	13

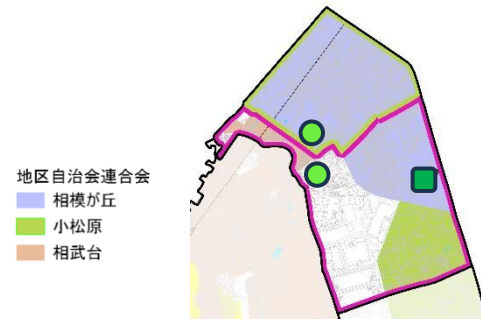
配置状況・地域状況・学区状況

● 相模中学校区の学校配置

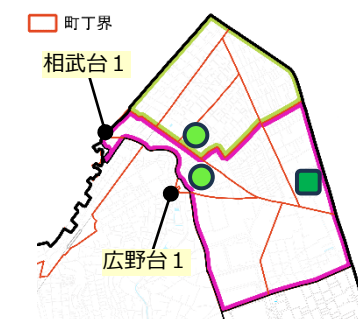
- 1 中学校区に2つの小学校区があり、小学校区と中学校区が完全に一致する。2つの小学校区間の直線距離は300m程度と近接している。
- 相模野小学校の西側は相武台東小学校区であり、相模野小学校区は変則的な形状になっている。
- 相模野小学校区は、工業地域及び他校学区が隣接しているため、東側及び北西側の一部に限られる。



● 地区自治会連合会との対比



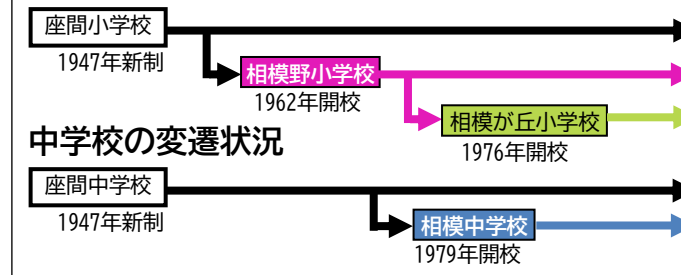
● 町丁界との対比



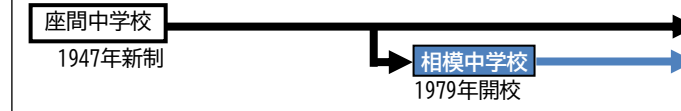
- 相模が丘地区自治会連合会は、中学校区と一致する。
- 小・中学校区ともにおおむね町丁界と一致している。
- 相武台1丁目や広野台1丁目の一部に一致しない地点がある。

学校の変遷

小学校の変遷状況



中学校の変遷状況



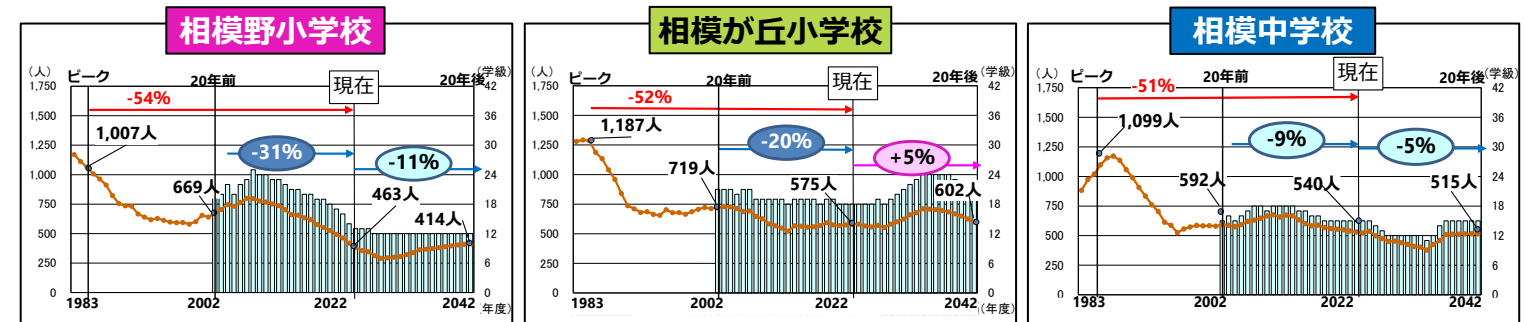
小学生の進学先の割合 (令和元～3(2019～2021)年平均)

小学校名	進学先	相模中学校
相模野小学校		100%
相模が丘小学校		100%

※国・県・私立中学校への進学者と、3名以下の進学先は含まない。

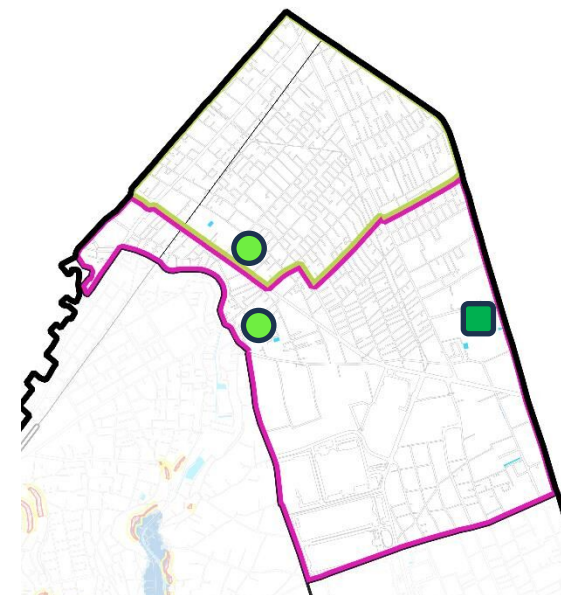
学校別児童生徒数の推移・推計

令和4(2022)年11月時点



- 今後20年の児童生徒数の推計は、すでに減少している相模野小学校では-11%だが、相模が丘小学校は5%増加する見込み。
- 相模中学校は、今後20年で5%の減少見込み。
- 相模が丘小学校は、当面の間、増加傾向にあり、学級数も最大24学級まで増加する見込み。

ハザードマップ



- 土砂災害警戒区域は、相模が丘小学校区、相模野小学校区ともない。
- 洪水浸水地域は、相模が丘小学校区、相模野小学校区ともない。

出典：国土交通省 国土数値情報 (洪水浸水想定地域データ) (土砂災害警戒区域データ)